

## Contents

---

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| Are You Ready for BYOD?<br>—教育用コンピュータシステムをリニューアルしました— | 02 |
| ノートパソコンを使った学習にお勧め!<br>—吉田南構内の自学自習場所紹介マップ—             | 05 |
| ソフトウェアライセンスの適正な使用について                                 | 06 |
| 標的型攻撃メールの訓練を今年度も実施しました                                | 07 |
| 卒業や修了、異動や退職時の全学アカウント及び全学メールについて                       | 08 |
| 財務会計システムにおける納品データの取込み開始について                           | 10 |
| WEBホスティングサービスの支援強化                                    | 11 |
| 情報環境機構が提供するストレージサービスの紹介                               | 12 |
| EDUCAUSE2017に参加してきました                                 | 14 |
| 大学ICT推進協議会(AXIES)2017年度年次大会に出展しました                    | 15 |
| 2017(平成29)年10月より東京オフィスでウェブ予約システムを導入しています              | 16 |
| 講習会情報                                                 | 18 |
| 全学機構ガイダンス                                             | 19 |
| セキュリティの話題から(第13回)<br>「ビジネスメール詐欺に注意!」                  | 20 |

---

# Are You Ready for BYOD?

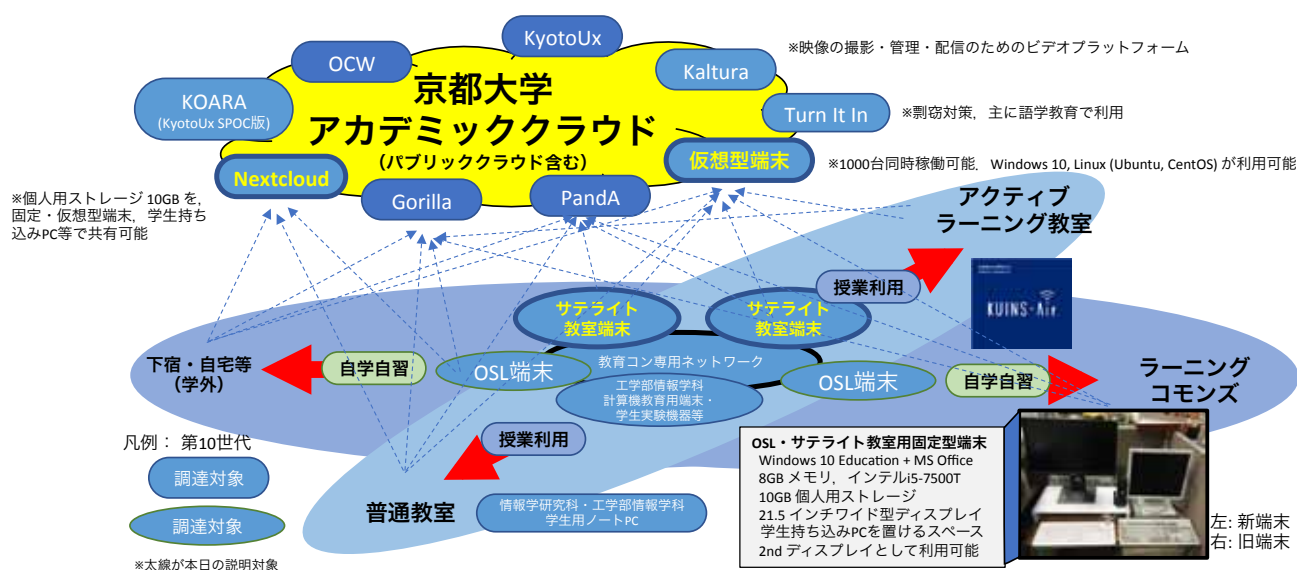
## —教育用コンピュータシステムをリニューアルしました—

2018(平成30)年3月に第10世代目となる教育用コンピュータシステムの運用を開始しました。今回のシステムは、京都大学で準備したデスクトップ端末を利用する形態から、BYOD (Bring Your Own Device)といわれる学生が自分のPCを持ち込み、授業などで利用する形態に大きく方向転換したものとなります。

ただ、いきなりすべての固定型端末を廃止し、BYODに移行することは、教員・学生双方の負担が大きくなることから、各部局の協力のもと、今回はBYOD 移行期として位置づけ、部分的な BYOD 化と持ち込みパソコンの「併用」を重視したシステムとなっています。

### 京都大学版 BYOD

学生所有PC推奨・必携化を通じた教育学習空間の拡大・創造による教えと学びの深化



### ■主な変更点

- 全体で約1/3の固定型端末を削減しました。
- オープンスペースラボラトリ (OSL) の固定型端末を約7割削減し、そのスペースを持ち込みパソコンが利用できるラーニングコモンズとして整備しました。  
(2017(平成 29)年度学部新生へのアンケート調査では 97.5% が所持又は購入予定との結果でした。回答率 81.4%)
- 法学部、経済学部、工学部、理学部、薬学部のサテライト教室は教室単位で削減しました。なお、他のサテライト教室には、持ち込みパソコンとの併用が可能な固定型端末 (Windows 10) を導入しました。
- 全てのサテライト教室にはサーバ側で起動・利用できる仮想型端末 (VDI: Virtual Desktop Infrastructure) を導入しました。仮想型端末は同時1,000台稼働可能で、学内外からネットワークを介してWindows 10 又はLinux (Ubuntu またはCentOS) が利用できます。これにより、普通教室での統一的な端末環境の提供が可能になるため、授業及び予習・復習における接続性の改善、遠隔キャンパスからの授業準備などが実現できます。
- 1回生の演習科目が集中する学術情報メディアセンター南館の端末室は維持するとともに、国際高等教育院のCALL教室を教育用コンピュータシステムの端末室として再整備し、外国語教育環境の改善を進めます。

○プリンタは廃止しましたが、サテライト教室によっては部局のローカルプリンタが利用できることもあります。プリンタがないサテライト教室については、京都大学生協が提供するネットプリントサービスを生協店舗又は部局指定場所にて利用していただきます。

## ■固定型端末と持ち込みパソコンなどの利用方法

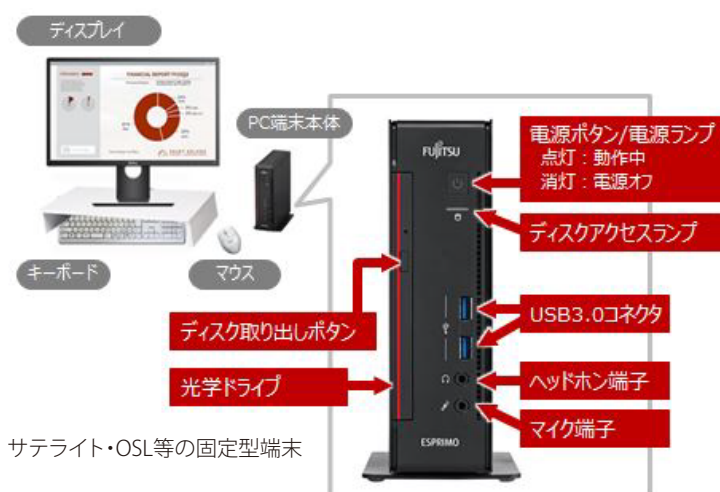
### ○OSLやサテライトでの固定型端末利用

固定型端末をオープンスペースラボラトリ (OSL) や各学部部のサテライト教室など学内13箇所に設置しています。これらの端末では基本ソフトウェア (OS) としてWindows10、アプリケーションソフトウェアとしてMicrosoft Office 2016や授業等で利用するソフトウェアが使用できます。

利用者のファイルは学内に設置されているファイルサーバに格納され、ネットワークを介して固定型端末から利用できます。なお、このファイルは特別な設定をしない限り、他の利用者からアクセスされることはありません。

### 【プリンタ】

今回の教育用コンピュータシステムの更新によりサテライト教室及びOSLでの印刷サービスは廃止しました。OSLから印刷する場合は、生協の有償サービス (Webプリントシステム) をご利用ください。サテライト教室での印刷については、各サテライトの管理者にご相談ください。



Windows 10 Education + MS Office 2016  
8GB メモリ, インテルi5-7500T  
10GB 個人用ストレージ  
21.5 インチワイド型ディスプレイ

学生持ち込みPCを置けるスペース  
2nd ディスプレイとして利用可能

### ○仮想型端末の利用

OSLやサテライト教室に設置されている固定型端末からだけでなく、自宅や学内のどこからでもネットワークを介して仮想型端末サービスを利用することができます。

教室での授業や自宅での自学自習、学内の研究室での授業の準備などにご利用いただけます。

※ 利用のためには科目担当者又はシステム管理者の許可が必要です。



## アクセスは PandA から



- ・ 教員・学生ともPandA から、当該科目のコースサイトから使用できます
  - ー KULASIS との履修情報連携により、受講者は自動的に利用できます
  - ー ただし、VDI システムへの接続時にワンタイムパスワードが必要です
    - ・ ワンタイムパスワードは全学メールアドレスに送信されます
- ・ 授業利用は自動起動、自学自習利用は予約利用になります

### ○持ち込みパソコン等のBYOD 型端末での利用

持ち込みPCは KUINS-Air を利用してください。

固定型端末のディスプレイには VGA または HDMI で接続し、セカンドディスプレイとして利用できます。



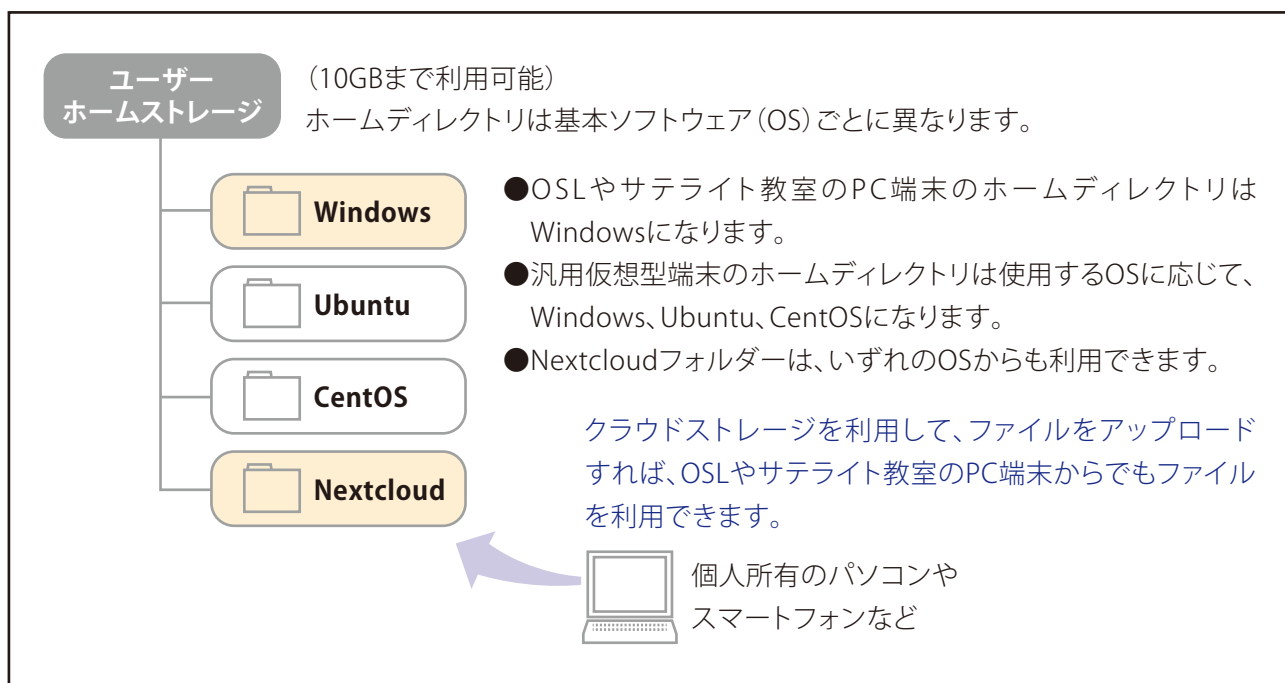
### ○クラウドストレージサービス

クラウドストレージは、教育用コンピュータシステムの利用者ストレージにあるファイルに、個人所有のパソコンやスマートフォンなどからアクセスできるサービスです。ファイルを保存するだけでなく、お持ちの複数の端末でファイルを共有する機能などもあります。

端末サービス(固定型・仮想型)双方とも、ログインすると Nextcloud フォルダ(ドライブ)が利用できます。

Nextcloud フォルダは、専用のソフトウェアを利用することでPC・タブレット・スマートフォンとの間でファイル同期ができます。他のユーザとのファイル共有も可能です。

## 教育用コンピュータシステムの利用者ストレージ構造



### ■最後に

新しいシステムを利用する最初の学期となる2018(平成30)年度前期は、想定外の問題も含め、いろいろな事象が発生する可能性があります。

情報環境機構では、学術情報メディアセンター南館1階のオープンスペースラボラトリに BYOD-TAを配置し、持ち込みパソコンの対応も含め、障害対応・質問対応を強化することとしています。

### ■お問い合わせ

メールで下記までご連絡ください。

support@iimc.kyoto-u.ac.jp

(梶田 将司:情報環境機構教育支援部門長)



## ノートパソコンを使った学習にお勧め！ —吉田南構内の自学自習場所紹介マップ—

京都大学では学習用ノートパソコンの保有が推奨されており、学生の皆さんにとって、学内でノートパソコンを使った自学自習を行う機会が増えてきたと思います。特に、教養・共通教育を受ける学生が多い吉田南構内では、様々な形で自学自習を行う場所へのニーズが高まっています。

そこで、この記事ではノートパソコンを使った学習が行える、吉田南構内の自学自習スペースをご紹介します。ノートパソコンの充電に利用できる机上電源の有無や、グループ学習のために会話が許されているかどうか、といった情報も併せて記載していますので、ぜひキャンパス内での学習に役立てていただければと思います。

※なお、机上に電源がなくても、壁・床など近くの電源が利用できる場合があります。

### 吉田南構内の既存の自学自習スペース (2018年3月情報環境機構調べ)



(※座席数は情報環境支援センター調べ)

(情報環境支援センター)

 注意喚起

## ソフトウェアライセンスの適正な使用について

本学の構成員の皆様には、コンピュータソフトウェア（以下、「ソフトウェア」という。）の適正な管理や使用に努めていただいているところではありますが、昨年本学の留学生がライセンスを購入していないソフトウェアを不正に使用していたことが発覚し、所属部局長から、厳重注意を受ける事案がありました。ソフトウェアの不正使用は、著作権法違反となり本人のみならず機関が法的責任を問われ、損害賠償等を求められることや、信頼を失墜することにもなります。

以下の事項を確認いただき、ソフトウェアの適正な管理や使用に努めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

日本の法律や制度になじみの少ない留学生や外国人研究者の方は特に注意していただき、教員におかれましては指導・助言等よろしくお願いいたします。

- ソフトウェアは、正規品を正しい流通経路（正規販売代理店、メーカー直販等）で入手し、WEB等より海賊版ソフトウェアを入手しない。
- クラックツール（ソフトウェアの仕組みを不正に改変するツール）を入手しない。
- ソフトウェアは、「使用許諾契約書」に則って適正に使用し、不正な改変や複製は行わない。
- 購入したソフトウェアは、媒体（CD、DVD、WEBからのダウンロード等）を問わず、関係者以外の手に触れないように適切に管理する。
- 購入したソフトウェアのライセンス証書や使用許諾契約書は、必要に応じてすぐに確認できるように、適切に保管する。
- 情報機器の管理責任者は、インストールされているソフトウェアを把握し、適正に使用されていることを定期的に確認する。

（情報環境機構情報基盤部門）

## 標的型攻撃メールの訓練を今年度も実施しました

本学の職員等が、標的型攻撃メールやその可能性がある不審なメールを受信した際に、URLのクリックや添付ファイルの開封を行わず、必要な報告を迅速に行うなど適切な対応を行うことができるよう、昨年度に引き続き標的型攻撃メールの訓練を実施しました。

実施にあたっては、事前に各部局のセキュリティ事務担当を通して、標的型攻撃メールの概要と本学における対応をまとめた資料(※1)を配布するとともに、訓練の実施をお知らせしました。

訓練の概要は以下のとおりです。

### ■対象者

教職員用メールのメールアドレスを発行されている全ての役員、教職員等

### ■実施期間・回数

2017(平成29)年10月～11月に合計2回

### ■まとめ

本訓練メール受信時に限らず、※1の記載にあるように怪しいメールを受信した際に、多くのご連絡をいただくようになりました。みなさまの意識が向上したことが、このような形で表れています。

日ごろより、怪しいメールが本学にも届いています。今後も十分に注意していただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、2018(平成30)年度についても、引き続き同様の訓練を実施することを計画しています。対象者の皆様には、お手数をおかけしますがご理解のほど、よろしくお願いいたします。

※1：標的型攻撃メールの概要と対応

[http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/use/targeted\\_email.html](http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/use/targeted_email.html)

(情報環境機構 Web サイト > F01 情報セキュリティ > 【学内限定】 標的型攻撃メールの概要と対応)

(企画・情報部 情報基盤課 セキュリティ対策掛)

## 卒業や修了、異動や退職時の全学アカウント及び全学メールについて

京都大学で発行している全学アカウント(ECS-ID(学生アカウント)・SPS-ID(教職員アカウント))及び全学メール(KUMOI(学生用メール)・KUMail(教職員用メール))は、京都大学に籍がなくなった場合はご利用いただけなくなります。

下記に、それぞれのケースによって必要な手続き、作業を記載しておりますので、ご準備ください。

### ■3月で卒業、修了、退学等される学生のみなさま

2018(平成30)年3月31日までに以下の準備をしてください。

#### ①必要なファイルのバックアップ

教育用コンピュータシステムのPC端末にログインし、必要なファイルをUSBメモリに保存してください。CDやDVDには保存できません。

#### ②必要なメールのバックアップ

メールソフトを使う方法とGmailやHotMailに取り込む方法があります。下記に掲載していますので、参考にしてください。

FAQ [http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumoi\\_Use/](http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumoi_Use/)

#### ③メールの転送設定

転送先を設定しておけば、KUMOIに届いたメールは、利用停止後3ヶ月(6月末まで)の間、転送先に転送されます。下記にアクセスのうえ転送設定してください。

京都大学全学アカウント管理>パスワードの変更・学生用メール(KUMOI)の転送設定変更

<https://ecs.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

#### ④生涯メールアドレスの転送先設定の確認

正規学生の方には、生涯メールアドレスを発行しています。下記URLにアクセスのうえ、「登録情報の変更」から生涯メールアドレスとパスワードでログインし、転送先メールアドレスを確認・変更してください。

京大大学生涯メールサービス <https://www.lm.iimc.kyoto-u.ac.jp/kulml/>

※生涯メールは転送専用のアドレスですが、転送先に常に有効なアドレスを登録しておくことにより、生涯にわたってご利用いただけます。アドレスをまだ有効化されていない場合は、「お問い合わせ」からご連絡ください。

#### ⑤その他

4月以降に利用されるメールアドレスを関係者に知らせておいてください。

### ■4月以降も京都大学に在籍するが、身分や所属が変更になる学生のみなさま

#### 【学生区分で身分が変わる場合(学部生→院生、院生→研究生、研究生→院生など)】

同じECS-ID及びKUMOIアドレスをそのままご利用いただけます。この場合は、手続き不要です。

なお、ECS-IDの通知書を受け取られた方で、通知書にこれまでと異なるECS-IDが記載されている場合は、二重発行の可能性がありますので、情報環境支援センターまでご連絡ください。

#### 【学術振興会特別研究員(PD)や非常勤講師、研修員などに身分が変わる場合】

ECS-IDの資格変更(継続)の手続きをすることで同じECS-IDとKUMOIアドレスが利用できます。5月から6月にかけてKUMOI宛にお知らせしますので、案内が届きましたら資格変更の手続きをしてください。

#### 【京都大学の教職員(非常勤講師を除く)になられる場合】

京都大学の教職員には、SPS-ID(教職員アカウント)とKUMail(教職員用メール)アドレスが発行されますので、以降はそちらをお使いください。ECS-ID及びKUMOIアドレスは利用できなくなりますので、上述の「3月で卒業、修了、退学される学生のみなさま」をご覧のうえご対応ください。



## ■異動、退職等をされる教職員(学外非常勤講師を除く)のみなさま

### 【学内での異動の場合】

学内異動の場合は、これまでと同じSPS-IDとKUMailアドレスをお使いいただけます。手続きは不要です。

### 【退職、学外へ異動される場合】

京都大学を離籍されるとSPS-IDとKUMailアドレスはご利用いただけなくなります。以下の準備をしてください。

#### ①必要なメールのバックアップ

SPS-IDが失効する前にメールを保存して、新しいメール環境に移行できるよう準備してください。

FAQ [http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumail/kumail\\_9.html](http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumail/kumail_9.html)

#### ②メールの転送設定

SPS-IDが失効する前に転送先メールアドレスが確定している場合は、メール転送の設定を行ってください。

KUMailアドレスに届いたメールは、90日間は転送先で指定したメールアドレスに転送されます。

もし、SPS-ID失効前に転送先メールアドレスが確定していない場合は、その旨記載のうえ

[kumail-qa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:kumail-qa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)までメールでご相談ください。

#### ③生涯メールアドレスの転送先設定の確認

常勤教職員の方には、生涯メールアドレスを発行しています。下記URLにアクセスのうえ、「登録情報の変更」から生涯メールアドレスとパスワードでログインし、転送先メールアドレスを確認・変更してください。

京都大学生涯メールサービス <https://www.lm.iimc.kyoto-u.ac.jp/kulml/>

※生涯メールは転送専用のアドレスですが、転送先に常に有効なアドレスを登録しておくことにより、生涯にわたってご利用いただけます。アドレスをまだ有効化されていない場合は、「お問い合わせ」からご連絡ください。

#### ④ネットワークのVLAN管理責任者やホスティングサービスの利用者になっておられる場合は、管理者等の変更手続きをお願いします。

下記から手続きをお願いします。

##### ◆ネットワークのVLAN管理責任者等

教職員認証システム(グループウェア) > 業務リンク > ネットワーク申請等 >

KUINS接続機器登録データベース

##### ◆ホスティング利用者

別途利用者の方あてに2018年度のホスティングサービスの利用について照会メールを送信いたしますので、案内にそって手続きをお願いします。

### 【京都大学に何らかの身分が残る場合】

京都大学の学外非常勤講師、学振特別研究員、研修員、受託研究員、民間等共同研究員などになれる場合は、申請していただくことで、ECS-IDを発行します。申請方法等は下記をご覧ください。

ECS-ID(学生アカウント)の取得と継続申請 <https://url.iimc.kyoto-u.ac.jp/z3nu0>

※名誉教授の先生方には一括してECS-ID(学生アカウント)を発行しています。有効化処理をしてご利用ください。このECS-IDでKUMOI(学生用メール)やネットワークが利用できます。また、一度取得されたECS-IDとKUMOIのメールアドレスは年度更新なくご利用いただけます。

## ■お問い合わせ

IDやメールアドレスの取得・利用に関して不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

E-mail: [support@iimc.kyoto-u.ac.jp](mailto:support@iimc.kyoto-u.ac.jp)

(情報環境支援センター)

## 財務会計システムにおける納品データの取込み開始について

京都大学では、伝票入力業務の省力化と効率化に資する新たな取組みとして、2018(平成30)年1月より、大学全体に占める取引件数が最も多い業者との取引について、本学の財務会計システムに納品データを取込む運用を開始しました。

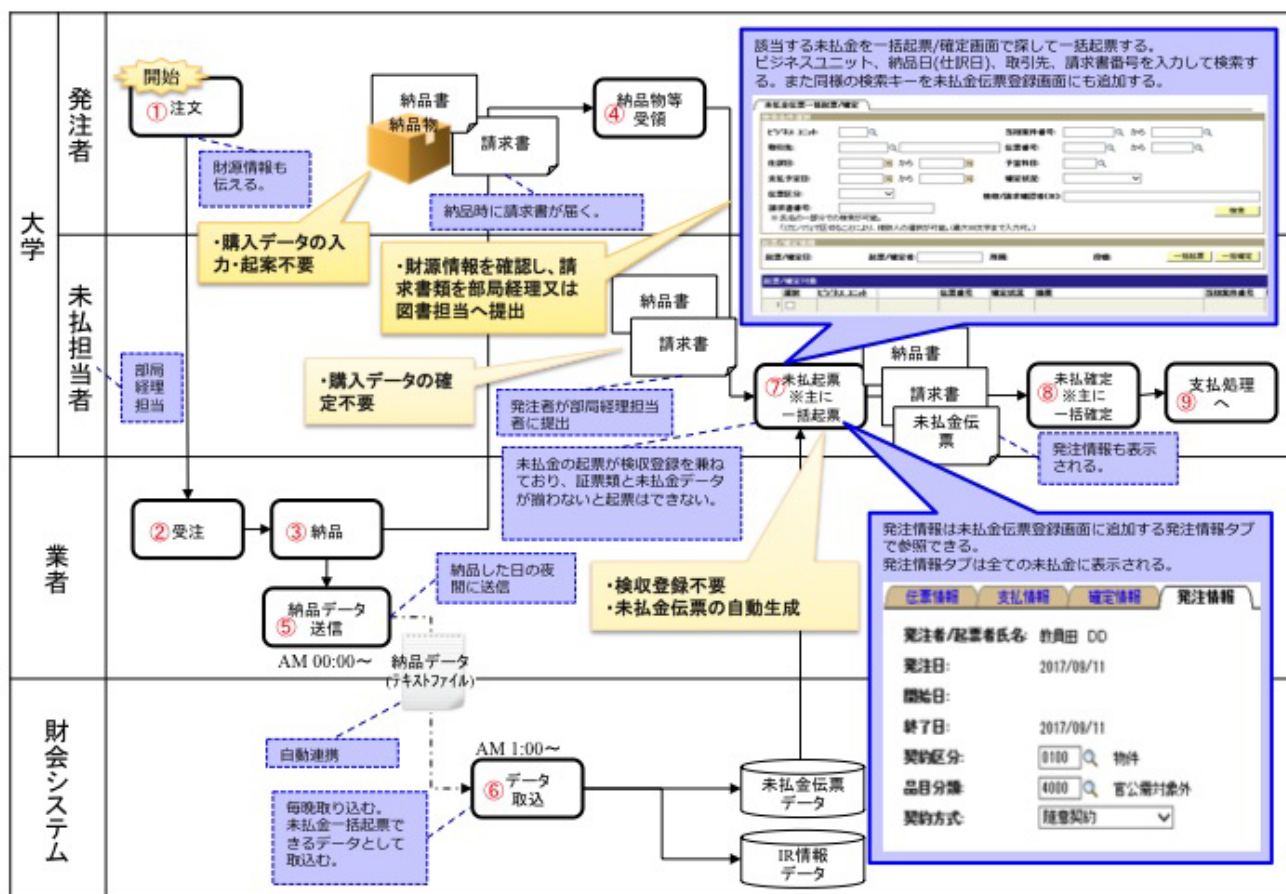
これまでの教員発注では、研究者は原則として契約毎に発注データを財務会計システムに入力する必要がありました。

業者から納品データを取込むことにより、研究者の発注データの入力の手間を省くとともに、事務においても購入データの確定や検収データの登録、未払データの自動生成といった経理業務の効率化が期待できます。また、速やかに債務残高を把握することが可能となり、未払債務の計上漏れの防止に繋がります。

加えて、納品物のデータ(商品情報)を取得することにより、IR(Institutional Research)への貢献が期待できます。現時点では、納品データを連携している業者は1社のみですが、将来的には他業者とも納品データの連携を実施することで、研究者が教育研究に従事する時間を確保することが可能となり、より一層の省力化と効率化が期待できると考えています。

納品データの取込み開始後は、しばらくの間ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

【納品データ連携による基本的な経理業務フロー】



(財務会計システムデータ連携プロジェクト)

## WEBホスティングサービスの支援強化

情報環境機構では、教職員自身によるwebをはじめとするインターネット・イントラネットへの情報サービス提供を支援するため、VMホスティングサービス、WEBホスティングサービスを提供しています。特にWEBホスティングサービスは、研究室や部局のweb発信の手段として、多数のご利用をいただいておりますが、その一方、情報セキュリティやバックアップに関する懸念の声もかねてより挙がっておりました。そこで、2018(平成30)年2月1日から、WEBホスティングサービスの支援内容を強化することとしました。

ここでは、「コンテンツバックアップ」と「WordPress自動更新設定(試行提供)」を紹介します。なお、この支援強化による、利用負担金額の変更はありません。

### ■ コンテンツバックアップ

誤操作によるコンテンツの削除や上書きを元に戻す、あるいは情報セキュリティ侵害によるデータの改ざんを検出・回復するための手段として、定期的にコンテンツデータのバックアップを保存し、必要な時に利用者へ提供します。現在は以下の方針で過去の状態を保存しています。

- 1時間毎に3時間前まで    ●1日毎に7日前まで
- 1週間毎に4週間前まで    ●1カ月毎に6カ月前まで(ただし2018(平成30)年1月から保存開始)

1時間前～半年前のコンテンツフォルダの内容を再現できますので、データを比較して、コンテンツの復旧及び改ざんの検出・回復が可能となります。なお、データベースのバックアップについては従来より取得(1日毎に7日前まで／1週間毎に4週間前まで)しております。

### ■ WordPress自動更新設定(試行提供)

WordPress(WP)は現在最も広く利用されているCMS(コンテンツマネジメントシステム)です。WEBホスティングサービスでは、サービス申し込み時に選択していただく

- 「WordPress/パッケージ」を追加し、情報環境機構側で事前に用意したWPサイトを利用する
- 「CGI/PHP/パッケージ」を追加し、利用者側でWPサイトをセットアップする

のいずれの方法を選択していただいてもWPを利用できます。

WPは多くのプラグイン、テーマをアレンジすることで、趣向に応じたwebコンテンツを比較的自由に作成することができます。反面、よく使われているソフトウェアであるため、攻撃の対象ともなり易く、安全なパスワードの管理、脆弱性に対する継続的なアップデートが強く求められます。

今回、上記の機構提供、独自構築、いずれの方法に関わらず、WPの自動アップデートが可能となりました。具体的には、WPの以下の構成内容について毎日更新の有無を確認し、必要があれば更新を適用するものです。

- WordPress本体(コア)    ●データベース    ●日本語化パッチ
- プラグイン(公式サイトで配布されているもの)    ●テーマ

現在稼働中のWPサイトに対しこの自動更新を適用するには、クラウドコンピューティング掛への申請が必要です。これは、個別のサイトのカスタマイズ状況が異なること、既に別の方法で自動更新が行われている可能性があることにより、利用者側でこの設定の導入可否を判断していただく必要があるためです。

なお、今後は、新規に構築するwebサイトに対し、「WordPress パッケージ」を選んでいただいた場合は、自動更新をデフォルトで適用する予定です。

### ■お問い合わせ先

なお、本件については、現在WEBホスティングサービスをご利用いただいている方には、個別に照会させていただいています。情報環境機構では、WEBホスティングサービスのさらなる利便性の向上、そして新しい形態での情報発信手段を引き続き検討してまいります。ご希望、ご意見などございましたらお気軽にお問い合わせください。

e-mail: whs-qa@media.kyoto-u.ac.jp

(青木 学聡:情報環境機構研究支援部門 准教授)

## サービス紹介

# 情報環境機構が提供するストレージサービスの紹介

情報環境機構では京都大学の学生・教職員の皆様が利用できるストレージサービスを複数提供しています。ここでは、各サービスの主な用途、典型的な利用方法や事例、制限事項、利用対象者などを紹介します。必要なシーンに応じて適切なストレージサービスをご利用ください。

表中の用途A～Dは以下のような用途への対応を表しています。

- A：ファイルの受け渡し
- B：データ保存・バックアップ
- C：個人の複数デバイスでのファイルの共有
- D：部課内などでのファイル共有

表: ストレージサービスの比較

| システム名<br>URL                                                                                                      | 用途 |   |   |   | 主な対象ファイル<br>(補足)                              | 利用者 |   |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|---|---|-----------------------------------------------|-----|---|---|
|                                                                                                                   | A  | B | C | D |                                               | 学   | 教 | 職 |
| <b>Nextcloud</b><br><a href="https://nextcloud.rd.iimc.kyoto-u.ac.jp">https://nextcloud.rd.iimc.kyoto-u.ac.jp</a> | ○  | ○ | ○ |   | 任意<br>(試行サービス中)                               | ○   | ○ | ○ |
| <b>BYODのためのクラウドストレージ</b><br><a href="https://storage.ecs.kyoto-u.ac.jp">https://storage.ecs.kyoto-u.ac.jp</a>     | △  | △ | ○ |   | 教育用コンピュータシステムの<br>PC端末内のファイル                  | ○   | ○ |   |
| <b>KUMailストレージ</b><br><a href="https://fsv.iimc.kyoto-u.ac.jp">https://fsv.iimc.kyoto-u.ac.jp</a>                 | ○  |   |   |   | 大容量の添付ファイル                                    |     | ○ | ○ |
| <b>グループウェア文書共有・大容量文書</b><br><a href="https://www.tam2.adm.kyoto-u.ac.jp">https://www.tam2.adm.kyoto-u.ac.jp</a>   | ○  |   |   | ○ | 会議資料、業務関係資料など<br>(学内アクセス限定)                   |     | ○ | ○ |
| <b>データ保存</b><br><a href="https://archive.iimc.kyoto-u.ac.jp">https://archive.iimc.kyoto-u.ac.jp</a>               |    | ○ |   |   | 長期保存すべき研究データなど<br>(学内アクセス限定)                  | △   | ○ | ○ |
| <b>事務用統合ファイルサーバ</b>                                                                                               |    |   |   | ○ | 部課内での共有や共同で編集するファイル<br>(特定のKUINS-IIIのみアクセス可能) |     |   | ○ |

## ■Nextcloud

オープンソースソフトウェアのNextcloudを利用して、キャンパスICTラボで提供しているストレージサービスです。ECS-IDまたはSPS-IDを持つ希望者は誰でも試行サービスをご利用いただけます。

学内外の相手にファイルを配布したり、複数人でファイル共有(共有相手も書き込み可能)したりできます。共有時にパスワードを付けたり、全学メールアドレスで相手を指定して安全に配布・共有することもできます。他の一般的なストレージサービスのフォルダを統合して扱うこともできます。

WindowsやmacOSなどのパソコンにデスクトップクライアントをインストールすると、パソコン内のファイルをサーバと自動的に同期し、複数デバイスで最新ファイルを自動的に共有できます。

## ■BYODのためのクラウドストレージ

情報環境機構が教育用コンピュータシステムで提供しているPC端末と、個人所有のパソコンやスマートフォンなどでファイルを共有することを目的とするサービスです。授業や自学自習でPC端末サービスを利用する学生と教員が、一人10GBまで利用することができます。

## ■KUMailストレージ

メールにファイルを添付せずにファイルを受け渡しすることを目的に導入したサービスです。SPS-IDを持つユーザが所有者となり、学内外のユーザにファイルを配布したり、他のユーザからファイルを受け取ったりすることができます。所有者一人につき2GBまで利用できます。

ファイルやフォルダを共有する際は、共有用のURLを相手に伝える方法に加えて、所有者が設定したパスワード



で保護する方法や一度だけ利用できるワンタイムパスワードを用いてダウンロードを許可するといった方法で安全性を高められます。

「受取フォルダ」機能を利用して相手からファイルをアップロードしてもらうこともできます。

また、Windowsではパソコン内のファイルやフォルダをサーバと自動的に同期するアプリケーションが用意されています。

## ■グループウェア文書共有・大容量文書

京都大学教職員ポータルから利用できるファイル受け渡しサービスで、SPS-IDを持つユーザが対象です。ファイルを受け取る側もSPS-IDでのログインが必要ですので、学内の教職員間で安全にファイルの受け渡しができます。

共有相手として、SPS-IDを持つ個人の他に、グループウェアの二次アドレス帳に登録されている「掛」や「グループ」を指定することもできます。

## ■データ保存

研究データや事務文書が対象の、重要データのアーカイブシステムです。SPS-IDを持つユーザと、SPS-IDユーザが許可したECS-IDを持つユーザが利用できます。

ライトアーカイブと呼ばれる領域にアップロードしたファイルを、ダークアーカイブと呼ばれる領域に安全に保存できることが特徴です。

ダークアーカイブは、1回限り書き込み可能な光ディスクに書き込まれ、通常はアクセスできない状態で保管されます。10年以上長期保存する運用計画を制定する予定です。

ファイルごとに「研究データ用」または「一般文書用」のメタデータを付与することができ、データの整理や検索時に活用することができます。

ライトアーカイブ領域のファイルは、全学メールアドレスで指定した学生や教職員と共有できる他、バージョン管理も可能です。

## ■事務用統合ファイルサーバ

事務本部棟や共通事務部の部課内でのファイル共有を目的としたファイル共有サービスです。

WindowsやmacOSから、SMBやCIFSと呼ばれるファイル共有プロトコルを用いてフォルダやファイルに直接アクセスするため、多人数でのファイル共有に向いています。

学内の特定の部屋からのアクセスのみを想定しており、KUINS-IIIの指定されたVLANからしかアクセスできないよう制限をかけています。

利用に関するご相談は、事務用統合ファイルサーバ・サポート担当 [tfsv@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:tfsv@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp) までご連絡ください。

今後、より便利なストレージサービスを提供するために、これらのサービスを整理したり、新たなサービスを導入したりすることも検討しています。

更新があった時には、Info!や情報環境機構のWebページで紹介していきます。

## ■お問い合わせ

下記までメールでお問い合わせください。

情報環境支援センター [support@iimc.kyoto-u.ac.jp](mailto:support@iimc.kyoto-u.ac.jp)

(古村 隆明: 情報環境機構IT企画室システムデザイン部門長)



## 参加報告

## EDUCAUSE2017に参加してきました

## ■ EDUCAUSEとは

EDUCAUSEとは、情報技術の活用によって高等教育を進歩させることを使命とする米国のNPOで、現在約2,200の大学・企業等が加盟する米国最大級の高等教育機関の一つです。2007(平成19)年以降には我が国からも京都大学をはじめ複数の大学等が加盟しています。

このEDUCAUSEの年次大会には、毎年約7,000名程度が参加し、大学の枠や業務分野の枠を越えて、様々な情報を共有する場が形成されています。

2017(平成29)年のEDUCAUSEは、2017(平成29)年10月31日からペンシルベニア州フィラデルフィアで開催され、本学からは情報環境機構から教員3名、企画・情報部から職員2名が、大学ICT動向調査および他大学の現状把握を目的として参加しました。

## ■ 印象に残った講演など

大学関係者が講演するブレイクアウトセッションに積極的に参加しました。その中の1つの「SaaS and Cloud: The Unauthorized Biography」は数多くのクラウド環境構築実績を持つ大学の発表であり、システムをクラウド化する場合に注意すべきことが議論されました。それらは私自身も業務の中で漠然とは気付いていたものですが、メインテーマとして扱われたことで明確な問題意識を持つようになりました。

著名人が講演されるゼネラルセッションでは理論物理学者のミチオ・カク氏による講演がありました。テーマは今後20年の技術発展についてです。その中でも情報技術の発展により医療分野も発展するといった内容が大変印象に残りました。医療分野は私が普段関わっている業務とはかけ離れていますが情報技術は様々な分野に深く関わり支えているものだとの再認識するきっかけになりました。

全体として、情報技術の課題は世界中で同じであることに気が付き、そして同じ課題に当面しているからこそEDUCAUSEのような情報共有の機会は大変活用できるものだと思います。

## ■ おわりに

EDUCAUSEでは情報技術の課題は世界でも同じことを知りましたが、一方で米国での生活は日本とは異なり、例えば交通機関の利用だけでも大きなシステムの違いがあります。このことは普段使い慣れているシステムについて考えるきっかけになりました。EDUCAUSE参加だけでなく米国で過ごした多くの時間が私にとって大変学びになり情報技術について意識が広がったと思います。

(下司 和彦:企画・情報部情報基盤課クラウドコンピューティング掛)



EDUCAUSE 2017の入場ゲート



ゼネラルセッション会場

## 大学ICT推進協議会 (AXIES) 2017年度年次大会に出展しました

情報環境機構では、2017(平成29)年12月13日(水)から15日(金)にかけて広島国際会議場で開催された大学ICT推進協議会 (AXIES) 2017年度年次大会に出展、参加しました。

大学ICT推進協議会 (AXIES: Academic eXchange for Information Environment and Strategy) は「高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与する」ことを目的として設立された組織です。現在105の大学や研究機関及び61の企業が加入し、12部会 (CIO部会、ITベンチマーキング部会、情報教育部会、オープンソース技術部会、学術・研究コンテンツ共有流通部会、ソフトウェアライセンス部会、認証連携部会、クラウド部会、ICT利活用調査部会、教育技術開発部会、高品質・セキュリティICT部会、研究データマネジメント部会) で構成され活動を行っています。

年次大会は、年に1回、12月中旬に開催されており、会員や国内の高等教育・学術研究機関間で、各種専門的情報の提供と交換が行われるものです。会期中には、展示会、企画セッション、一般セッション、ポスターセッションなどが開催されます。今年度は大学関係者646名、企業関係者536名が参加されました。

情報環境機構は展示会に出展し、「オープンサイエンスに向けた研究活動支援」と題し、情報環境機構で取り組んでいる京都大学教育研究活動データベースとresearchmap・KURENAI・ORCIDなどとの連携、図書館機構で取り組んでいるKURENAIにおける研究成果のオープンアクセス・京都大学貴重資料デジタルアーカイブ、総合博物館で取り組んでいる京都大学研究資源アーカイブに関してそれぞれの活動の展示を行いました。



全体会の基調講演では、メリーランド大学ボルティモア郡校のJack Suess副学長 (EDUCAUSE理事) 及び立命館大学上原哲太郎教授による講演が行われました。Jack Suess副学長からは「なぜNGDLE (次世代電子学習環境) が必要なのか、いま大学は何を備えるべきか」と題して、これまでの学習環境の変化および次世代に向けた電子学習環境として必要な構成要素について講演が行われました。上原哲太郎教授からは「クラウドファースト時代の大学情報セキュリティ」と題して、機微な情報を含む情報システムをインターネットの脅威から守りつつ業務効率化を図るにはどうすべきか、大学ICTシステムが直面している課題についての講演が行われました。

次回の大学ICT推進協議会 (AXIES) 年次大会は2018(平成30)年11月19日(月)から21日(水)に札幌コンベンションセンターで開催されます。大学ICTに関心のある方は是非ご参加いただければと思います。

(渥美 紀寿: 情報環境機構IT企画室システムデザイン部門助教)

 他部局事例紹介

## 2017(平成29)年10月より東京オフィスでウェブ予約システムを導入しています

京都大学が、東京における情報発信拠点として、「京都大学東京オフィス」を東京駅の近くにある新丸ビル10階に開設していることをご存知でしょうか。

この「東京オフィス」には、教職員や卒業生のみなさんに有料でご利用いただける会議室が大小6室あるほか、学生も無料で利用できるラウンジスペースがあります。

このたび、有料会議室の予約受付を、電話(仮予約)と紙の申請書(本予約)からウェブ予約システムに変更しました。

システム導入により、空き状況をいつでも確認できるようになり、使用申請も簡略になりましたので、多くのみなさんのご利用をお待ちしております。

### ■システム導入の経緯

これまでは電話で最初の予約を受け付けていましたが、利用者にとっては、東京オフィスの受付時間内に電話することや、その後、紙の使用申請書に押印して、郵便又はメール添付で東京オフィスに送付することなど、手間が多かったことが課題になっていました。

また、2016(平成28)年に品川から丸の内へオフィスが移転した際に、有料会議室が3室から6室に増え、東京と京都のスタッフ間で、ミスが起こらないよう情報を共有し、手続きを進めていくことが負担となっており、システムの導入を検討しました。

### ■導入前後の比較

|         | 導入前                                                              | 導入後                                                               |
|---------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 予約状況の公開 | ホームページにPDFの予約状況一覧を掲載し、2週間に1回程度更新                                 | ウェブ予約システムで常時最新情報を公開                                               |
| 仮予約     | 東京オフィス受付時間(10:00-19:30)内に電話で受付                                   | ウェブ予約システムから随時受付                                                   |
| 本予約     | 仮予約の電話の際に申込者と詳細情報を調整し、後日申込者から、責任者と会計担当者の印が押された紙の申請書を、郵便かメール添付で受領 | システムに入力された内容に不明な点がなければ、そのまま受領。不足等がある場合は、後日申込者から必要事項を追記した返信メールを受領。 |
| 予約確定    | 紙の許可書を事務担当者あてに学内便又は郵送で送付                                         | 本予約確認通知を事務担当者あてにメールで送信                                            |

### ■成果・効果

| 利用者側                                                 | スタッフ側                                                                  |
|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 最新の空き状況を、東京オフィス受付時間外でも確認できるようになった。                   | システム上で自動的に予約台帳が作成され、東京と京都、両方のスタッフが、最新の状況を即時に把握できるようになった。               |
| 紙の使用申請書に、使用責任者と会計担当者の印を押す必要がなくなったため、手続きにかかる時間が短縮された。 | 請求手続きのために、紙の申請書の内容をAccessに入力していたが、予約内容をシステムから取り込むことが可能となり、作業の効率化が図られた。 |

## ■課題

請求書発行の有無にかかわらず、ウェブからの予約・変更は、使用日の10日前までとし、10日を切った場合は、東京オフィスへ直接お問合せいただくようにしていますが、請求書発行が必要ではない学内利用者に関しては、直前の変更もウェブから受け付けるようにしていきたいと考えています。

## ■東京オフィスウェブ予約システムURL

<https://rsv.adm.kyoto-u.ac.jp/entry/>

「京都大学東京オフィス」のホームページにある「利用案内」からお進みください。

京都大学教職員ポータル施設の予約ページにある「京大東京オフィス(丸の内)」タブをクリックしても、上記ウェブ予約システムログイン画面へ進みます。

本学教職員が予約を行う場合は、「SPS-ID(京都大学教職員アカウント)」でログインしてください。

## ■問い合わせ先

ウェブ予約システムの画面▶

東京オフィス(開館日の10:00～19:30)

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

Tel: 03-5252-7070 Fax: 03-5252-7075

E-mail: [t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp)



## ■東京オフィスの紹介

|          |                                                                    |
|----------|--------------------------------------------------------------------|
| 開館日・利用時間 | 月曜日から土曜日 10時00分から20時00分<br>(土曜日はラウンジのみのご利用はできません)                  |
| 休館日      | 日曜日・祝日、年末年始(12月28日から1月3日)、創立記念日(6月18日)、<br>夏季一斉休業日(8月第3週の月曜日から水曜日) |
| 場所       | 〒100-6510 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング 10階                           |
| 交通案内     | JR、東京メトロ丸ノ内線「東京駅」直結<br>東京駅新幹線ホームより徒歩10分。丸の内北口改札出ですぐ。               |



大会議室A、大会議室B  
シンポジウム、セミナー、研究会などに。2室連結可能。



小会議室1～小会議室4  
少人数での打合せに。



ラウンジ  
会議室で利用前後の少人数の待合に。



ラウンジから見た東京駅  
赤レンガの駅舎や丸の内駅前広場がよく見えます。

(東京オフィス事務室／総務部渉外課総務・卒業生掛)



 講習会情報

情報環境機構では、利用者向けに各種の講習会を開催しています。申込み制になっているものについては、情報環境機構のWebサイトからお申し込みください。

講習会情報URL：<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/whatsnew/event/>

| 開催日                         | 講習会名                | 申込 | 定員  | 担当   |
|-----------------------------|---------------------|----|-----|------|
| 3月23日(金曜日) 10:00～12:00      | PandA利用講習会          | 必要 | 15名 | 教育支援 |
| 3月28日(水曜日) 15:00～17:00      | PandA利用講習会          | 必要 | 15名 | 教育支援 |
| 5月11日(金曜日) 10:30～16:00      | UNIX/Linux入門        | 必要 | 20名 |      |
| 5月18日(金曜日) 10:30～16:00      | Fortran入門           | 必要 | 20名 |      |
| 5月24日(木曜日) 10:30～16:00      | スパコン利用者講習会          | 必要 | 50名 |      |
| 5月25日(金曜日) 10:30～16:00      | XeonPhiプログラミング入門    | 必要 | 20名 |      |
| 5月31日(木曜日) 10:30～16:00      | Gaussian入門          | 必要 | 20名 |      |
| 6月1日(金曜日) 13:00～16:00       | MOPAC入門             | 必要 | 20名 |      |
| 6月7日(木曜日) 10:30～16:00       | ADAMS入門             | 必要 | 20名 |      |
| 6月8日(金曜日) 10:30～16:00       | Nastran, Patran入門   | 必要 | 20名 |      |
| 6月14日(木曜日) 10:30～17:00      | SAS入門               | 必要 | 20名 |      |
| 6月15日(金曜日) 10:30～16:00      | Marc入門              | 必要 | 20名 |      |
| 6月21日(木曜日) 10:30～16:00      | AVS基礎               | 必要 | 20名 |      |
| 6月22日(金曜日) 10:30～16:00      | AVS応用               | 必要 | 20名 |      |
| 6月28日(木曜日) 10:30～16:00      | IDLの基礎と応用           | 必要 | 20名 |      |
| 6月29日(金曜日) 10:30～16:00      | ENVIの基礎と応用          | 必要 | 20名 |      |
| 7月5日(木曜日) 10:30～16:00       | LS-DYNA入門           | 必要 | 20名 |      |
| 7月6日(金曜日) 10:30～16:00       | 数値解析プログラミング入門(NAG編) | 必要 | 20名 |      |
| 9月上旬(2日連続・日時未定) 10:30～16:00 | 並列プログラミング講座・初級編     | 必要 | 20名 |      |



## 全学機構ガイダンス

京都大学での新しい勉学・研究生活をスムーズにスタートしていただけるよう、新たに入学された方を対象として、情報環境・図書館・環境安全保健に関わる全学機構組織が連携してガイダンスを行っています。大学でのネットワーク利用、コンピュータウイルス対策等の情報セキュリティ対策、研究論文検索等での図書館利用法、健康管理、エコ生活等、キャンパスライフに関わる大切な話が多く含まれていますので、必ず参加するようご指導・ご周知ください。

### 日時・会場等

|        |                                                       |
|--------|-------------------------------------------------------|
| 新入学部生  | 4月3日(火)、4日(水)、5日(木) 各日 14:00～16:30<br>吉田南構内 吉田南4号館    |
| 大学院生向け | 4月3日(火)、4日(水)、5日(木) 各日 9:30～12:00<br>吉田南構内 国際高等教育院棟3階 |
| 留学生向け  | 4月17日(火) 16:30～18:30<br>吉田南構内 国際高等教育院棟3階              |

### ■ガイダンスの内容

#### 【情報環境：ネットワークの利用とセキュリティ】

京都大学の情報環境がどういうものか、どんなことができるのか、利用する上でどういうことに注意が必要なのか、情報環境を利用するための学生アカウント(ECS-ID)に関する注意事項など、包括的にお伝えします。

#### 【図書館の利用】

図書館が提供している電子ジャーナル、データベース、電子ブックなど電子リソースの適正な利用方法と注意点をはじめ、図書館の利用全般についてお伝えします。

#### 【安全なキャンパスライフを送るために】

大学生活が事故や健康障害によって台無しにならないよう、本学での事故の傾向や注意すべき点、実験中の安全対策、健康増進や環境配慮行動に対する取り組みなどについてお伝えします。

#### 【心肺蘇生・AED講習】

胸骨圧迫とAEDの使用法を、簡易の教材(あっぱくん)を使って体験しながら、心肺蘇生法によって命を救う術を学びます。

## セキュリティの話題から 第13回 ビジネスメール詐欺に注意！

2017(平成29)年12月、JALが取引先を装ったメールで旅客機のリース料などの振込先を変更するよう依頼され、偽の銀行口座に振り込んでだまし取られたニュースがありました。

今回は、ビジネスメール詐欺を紐解いて、大学ではどのように起こり得るのかを考えてみたいと思います。

### ビジネスメール詐欺の典型的な手口

- ・詐欺実行者が、標的となる組織間の電子メール(以下、メール)を盗み見る
- ・詐欺実行者は、請求書等が送信されたタイミングを見計らって、偽の振込先等を記載した請求書等を送りつけ、振込先口座番号が変更になったなどと主張する
- ・メールには、日ごろからやり取りをしている相手の署名やメールアドレスを使用するため、騙されて送金処理をする
- ・詐欺実行者が管理する口座に入金される

### 大学ではどのように起こり得るか

- (1) 大学が偽の口座に入金して、金銭を騙し取られる。
- (2) 大学の口座を偽の口座にすり替えられ、他機関が金銭を騙し取られる

まずお伝えすべきことは、本学においても、これらを狙っていると思われるメールの報告が届いており、決して対岸の火事ではないということです。

(1)は、本学が直接被害に遭うケースです。多くの場合、入金したのに相手から何の音沙汰もなく、確認すると未入金と言われて発覚します。(2)は、本学は直接の金銭的被害はありませんが、金銭授受の信用問題にかかわります。

### ビジネスメール詐欺にかからないためにはどうすれば良いか

まずは、メールのやり取りを盗み見されているという問題があります。メールが盗み見される場所は、送信者・経路・受信者の3カ所があります。送信者及び受信者のところは、PCがウイルス感染している、あるいはパスワードが窃取されてメールを直接盗み見されている可能性が考えられます。対策としては、日ごろからメールを使うPCのウイルス対策を実施していただくとともに、パスワードを堅牢なものにしておくことが重要です。経路上での盗み見は、S/MIMEなどを使ってメールそのものを暗号化することが対策になります。

#### (1) 大学が入金する側の場合

先方からの突然の口座番号変更は、疑ってかかる必要があります。面倒くさがらず、電話などできるだけメール以外の手段を用いて確認してください。

#### (2) 大学が入金を受ける側の場合

金銭のやり取りに直接関わるものは、メールでの連絡を極力避けてください。やむを得ずメールで連絡を行う場合も電話を併用するなど、詐欺行為が入り込みにくい手段を検討してください。

### 最後に

日ごろから、業者からの見積をメールで受け取っているような場合も多くあろうかと思います。しかし昨今では、金銭のやりとりが絡む連絡をメールのみで行うことは、非常に危険なものとなっています。メールは、容易に盗み見られ、なりすましも非常に容易です。大学組織としても、皆さまの個人としても、金銭が詐欺取されないように十分にご注意ください。

(片桐 統：情報環境機構IT企画室／企画・情報部情報基盤課セキュリティ対策掛長)



**京都大学情報環境機構**  
Institute for Information Management and Communication,  
Kyoto University

編集・発行：京都大学情報環境機構  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
Webサイト <http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/>

掲載記事に関するご質問やご意見・ご感想などありましたら、ぜひ下記までお寄せください。

【総合窓口】  
情報環境支援センター  
E-mail: [support@iimc.kyoto-u.ac.jp](mailto:support@iimc.kyoto-u.ac.jp)